

職員による自己評価

A環境面

教室は広いので、十分なスペースが取れている。

B児童への支援内容

個性に合わせた支援・学習面でのフォローを行っている。

C関係機関との連携

療育センター病院などと情報共有をしている。

D保護者への説明責任・信頼関係

送迎時などに話す機会を多く作っており、普段の様子などを伝えることが出来ている。
契約時や日々の連絡帳、面談などでも様子を話している。

E非常対応

避難訓練を定期的に行っている。

保護者による評価

A環境面

活動スペースが十分に確保されている。

B児童への支援内容

宿題などきちんと見てくれる。
プログラムの内容の固定化があるのでありがたいです。

C事業所からの情報発信

連絡帳で日々の様子を教えてくれる。
子どもが活動する姿を実際に直接見てみたい。

D非常対応

避難訓練の実施状況がわからない。

事業所内での分析

【共通点】

連絡帳にて保護者との連携が取れている。
活動スペースが十分である。

【相違点】

避難訓練を行っているが保護者に周知されていない。
プログラムの固定化がある。

分析・検討してみて…

事業所の強み

固定されず、日々楽しめるプログラムを提供していく。
学習時間の確保がされている。
子ども一人一人に合った支援がなされている。

事業所の改善点

避難訓練の保護者への実施状況説明が必要。
療育が1パターンになりつつあるので、それをもっと増やしていく方法はないか。
教室内をもっと有効活用することはできないか。

事業所の改善への取り組み

避難訓練の実施報告を徹底することが必要である。
カリキュラム内容をより強化していくために、今まで以上に保護者や子どもたちのニーズを分析していく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～